

平成25年産農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔平成25年12月25日〕
十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
十勝総合振興局産業振興部

1 考え方

本集計は、平成25年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合の取扱見込額について、各農協ごとに試算した概算値の集計であり、商取取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、直接支払交付金、生乳生産者補給金等を含む。

なお、本集計には、畑地の産地資金、農業共済金支払額は含まない。

2 平成25年の概要

**農協取扱高は、耕種部門が収穫期の降雨の影響を受け減収したものの、畜産部門の増収により、
2,658億円**

◇耕種部門取扱高◇ 1,156億円（対前年比 94%〔構成比43.5%〕）

本年は、6月以降の好天により各作物の生育は概ね順調に経過したものの、収穫時期の降雨により小麦や豆類の一部で品質低下が発生。

- 小麦は、収穫時期の長雨の影響により品質や製品歩留まりの低下がみられたことから、前年比24%減。
- 豆類は、生育は順調に経過したため、前年並の収量を確保したものの、雑豆で収穫時期の降雨による品質低下や価格低下の影響から、前年比10%減。
- ばれいしょは、地域間・品種間の差は大きかったものの、前年並の収量を確保し、生食向けの価格が回復したことから、前年比6%増。
- てんさいは、作付面積が減少しているものの、前年より糖度が上昇したことから、前年比2%増。
- 野菜は、全国的な品薄傾向から価格が前年と比べ高値で推移したことなどから、前年比8%増。

◇畜産部門取扱高◇ 1,502億円（対前年比107%〔構成比56.5%〕）

- 酪農は、7月以降の生乳生産は前年を下回ったものの、年間では前年並を確保し、乳価の上昇などから、前年比2%の増。
- 肉用牛は、と畜頭数や家畜市場での肉専用種の取引頭数の増加とともに、枝肉価格の回復や素牛取引価格が堅調に推移したことから、前年比19%増。

3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

区分	平成25年		平成24年		対前年比		
	取扱高	構成比	取扱高	構成比	取扱高	比率	
耕種	麦類	259	9.8	343	13.0	▲84	76
	雑穀・豆類	170	6.4	188	7.1	▲18	90
	ばれいしょ	250	9.4	236	9.0	14	106
	てんさい	258	9.7	252	9.6	6	102
	野菜	213	8.0	198	7.5	15	108
	その他	6	0.2	7	0.3	▲1	86
	小計	1,156	43.5	1,224	46.5	▲68	94
畜産	酪農	1,007	37.9	991	37.7	16	102
	生乳	888	33.4	874	33.2	14	102
	肉用牛	463	17.4	388	14.8	75	119
	豚・鶏	14	0.5	13	0.5	1	108
	その他	18	0.7	14	0.5	4	129
小計	1,502	56.5	1,406	53.5	96	107	
総合計	2,658	100.0	2,630	100.0	28	101	

※ 取扱高は税抜き。